舞鶴における待遇形式チャッタについて

藤井 圭美†

A Survey Study on the Honorific Expression *Chatta* in Maizuru

Tamami Fujii

1. はじめに

1.1 研究の背景と目的

共通語と同様に方言の研究においても，待遇表現に関するテーマは少なくない。特に東日本に比べ，西日本方言はその待遇表現の柱となる敬語の種類が豊富で，また使用頻度も高いとされる。

舞鶴方言の「チャッタ」も，そうした西日本における方言待遇形式の一つであろう。舞鶴は京都府北部中丹地域に位置する市であり，その舞鶴で話される言葉は近畿方言に属する。楳垣実『近畿方言の総合的研究』1962によると，近畿方言は自然的条件・文化的条件を反映し，大きく「中近畿方言」「南近畿方言」「北近畿方言」の３つに分けられるという。地勢においては南近畿と北近畿で性格が大きく異なるが，言語面においてはその違いは地勢面ほど顕著ではなく，中近畿方言に比べると南北近畿方言は古い言語状態を保存しているとされる。従って，北近畿方言地域に属する舞鶴には，中近畿方言地域では衰退傾向にある（もしくは衰退した）古いタイプの待遇方言形式が現在でも残っているものと考えられる。そこで，舞鶴において地元の人々に愛されている「チャッタ」という言葉に焦点を当てた研究をすることを考えた。

主に西日本の一部地域では「テヤ敬語」「テ敬語」と呼ばれる待遇形式が使われており，「チャッタ」はこの「テヤ」の過去の形である。京都では福知山・綾部など「中丹」と言われる北部地域でのみ用いられるこの待遇形式について，管見の限りでは舞鶴のチャッタに関してはこれまで取り上げられていない。そこでこの舞鶴に焦点を絞り，舞鶴方言チャッタの形態，運用実態などを明らかにすることが今回の研究の目的である。本研究が，方言使用が人間関係の構築などにどのように関わっているのか，また方言の将来といった方言研究分野において，今後さらに進められるであろう研究の一助となることができれば幸いである。

1.2 舞鶴のチャッタ

舞鶴市は，京都府北部の日本海に面した場所に位置する。かつて城下町として栄え，海軍ゆかりの建築物が今も残るこのまちで，最も特徴的で，最も市民に愛されている表現形式が「チャッタ」だろう。

標準語においては「見ちゃった」「食べちゃった」などの「ちゃった」は「～てしまった」のくだけた形として「行為の完了」や「残念な気持ち」を表す。しかし舞鶴で使われる「チャッタ」は，発音としては同じであっても統語的意味的に異なるもので，一種の待遇形式であり，「テヤ」の過去の形となっている。通常の敬語では「先生が言われる」「部長がおられた」と言うところを，舞鶴では「先生が言うテヤ」「部長がおっチャッタ」と表現する。文法的には舞鶴のテヤ・チャッタは動詞の活用形に接続し，意志形・命令形はない。

2. 先行研究

2.1 テヤ敬語についての先行研究

直接的に待遇形式「チャッタ」について論じている文献は少ない。しかし「テヤ敬語」もしくは「テ敬語」の変化した形として「チャッタ」に言及している文献はいくつか見られる。（本稿ではこの「テ敬語」「テヤ敬語」を「テヤ敬語」で統一して呼ぶこととする。）そこで，まずはテヤ敬語について調べることにした。先行研究の文献の多くは，テヤ敬語の形態について，「動詞の連用形＋テ＋指定辞」であるとしながら「テヤ」になぜ敬語としての意味があるのかを論じており，中には「テ」に尊敬の意味があると述べているものもある。本研究では，舞鶴におけるテヤ・チャッタの使用実態や運用状況を明らかにすることを目的としているが，テヤの持つ敬意がどこに由来するのかを考えることも舞鶴のチャッタを解明するための重要なポイントであると考え，その視点で先行研究を見てみることにした。

2.1.1 山崎久之の「江戸前期上方の待遇表現体系」：省略説

山崎（1963）は，「てじゃ」を「省略形が特別の待遇価値を持つに至ったと思える一群」として分類しており，こ

†2024年度修了（人文学プログラム）

の用法は婉曲表現から発展してできたものであると述べられている。山崎は「てじゃ」の他にも「てか」「てあるか」「ていらるるか」などテが関係する待遇表現について解説していて，これらはすべて現在使われているテヤ敬語の分析につながるものであると思われる。山崎の説においては助動詞「らるる」がキーポイントで，「らるる」をその他の待遇語と比較して用法に融通性・曖昧性が認められる「安易待遇語」と仮称し，「てじゃ」は「ていらるるじゃ」と同価値，つまり「いらるる」が省略された形であるとする。

その他，山崎は「てか」には①テイラルルという，存在態の主体待遇表現，②「動詞…ラレタ」の意の過去・完了の（対者的）主体待遇表現（対称に多く使用）という2種類の用法があり，①は対称・他称ともに用い，②は他称にも使われるが普通は対称に使用する，としている。これはつまり①の用法では対者待遇・第三者待遇ともに使われ，②の用法では第三者に使わなくもないが主に対者待遇で使用するという説明であり，この点では現在のテヤ敬語の使用対象考察の参考にできるのではないかと考える。

2.1.2 藤原与一の「“動詞連用形＋て＋指定助動詞その他”の尊敬表現法」：体言化説

藤原は，テヤ敬語を“動詞の連用形を助詞「テ」で受け，さらに指定助動詞（またはその他要素）で結んだ尊敬表現方法”として取り上げている。この藤原の言うところの「テ」敬語法において，第一要件は「テ」であり，その後に来るいわゆる指定助動詞「ジャ（もしくはヤ）」が第二要件とされる。この形式では第二要件に指定助動詞の終止形「ダ」が来ることはないため，関東地方など指定助動詞に「ダ」をとる地方ではこの尊敬敬語法は行われず，近畿以西の「ジャ」「ヤ」が使われる地域で「テ」敬語法が普及したものとしている。藤原は，尊敬動詞を使った敬語を「体の表現法」，一方「テ」を使った敬語を「用の表現法」と呼んでおり，なぜ「テ」には敬意があるのかについて，その敬意は「ジャ（もしくはヤ）」が「テ」を客体化（体言化）することで余裕感ができることにより生じると説明している。そしてその余裕感が人と人との間に間接性・婉曲性・距離感を作るとされているが，しかしながら筆者の考えでは，「テ」はあくまでも動詞テ形の「テ」であり，この「テ」に敬意を持たせるのは難しい話のように思われる。

2.1.3 鎌田良二の「尊敬表現「て」について」：状態化説

鎌田は，「ている」における「テ」には動作を状態化させる作用があり，状態化がすなわち尊敬表現につながると述べている。状態化するということは，話し手と聞き手，話し手と事象の間に断層を認め，従って相手の動作を距離をおいて眺めることになるのだという。鎌田はこの論述において「テ」の持つ敬意について主に述べており，「ヤ」については言及していない。「テ」については鎌田も藤原と同様に敬意の由来が「テ」にあるとしており，藤原の体言化説と同様，疑問点の残る説明となっている。

2.1.4 村上謙の「近世前期上方における尊敬語表現「て＋指定辞」の成立について」：「テゴザル」からの変化説

村上は，近世前期上方で生じた状態性を有する尊敬語表現「テ＋指定辞」の成立過程について，本稿で先に述べた山崎の「省略説」，藤原の「体言化説」，鎌田の「状態化説」以外に「テゴザルからの変化説」を提唱している。村上によると，「ゴザル」は「ある」「居る」などの存在を表す尊敬語ないし丁寧語であり，同時に「行く」「来る」などの移動を表す尊敬語でもあったために，補助動詞的にテゴザルとなった場合も，テイル・テアルに相当するような状態的用法をも担ったとしている。そして，このテゴザルが変化してテヤとなったのだという。村上の説でも，「ヤ」が指定辞であるとの明確な解釈は見られないが，村上の説はそもそも「テ＋指定辞」の成立過程について述べたもので，やはりヤが指定辞であることを前提に論じられているものと考えられる。しかし，形態的特徴から見て，「テゴザル」が「テヤ」に変化するのは難しいのではないかという疑問が残る。

2.1.5 小西・井上の「富山県呉西地方における尊敬形「～テヤ」」

テヤ敬語は北陸地方の一部地域でも使用されている。テヤがなぜ敬語として使われるようになったについて先の研究者が行った研究をいくつか挙げたが，その多くが「ヤ」が指定辞である前提で論じられていた。しかし，この小西・井上の論文では「井波・高岡方言と上方語や他の西日本方言とではテヤ形の構造が異なる」とした上で，「ヤ」が指定辞であると分析される可能性は排除できないが，井波方言のテヤ形のヤは，共時的には指定辞ではないとしている。そして，テヤ敬語が「～テ＋尊敬の補助動詞ヤル（ないしアル）」に由来するならば，テヤ敬語が継続相・尊敬をあらわしたことを無理なく説明できるとしている。

筆者は，今回チャッタを論じるにあたって，チャッタの元の形であるテヤの文法的構造については，この小西・井上の分析を根拠として考えたいと思う。日本国語大辞典によれば「ヤル」は「アル」の変化した形で，「初めは敬語であったが，近世語としては，同等またはそれに近い目下のものの動作について，丁寧に，また親愛の気持で用いる」ようになったとされている。また同じく日本国語大辞典には，方言としての「ヤル」が「相手に対する軽い敬意，または親しみを表わす」とも説明されている。従って，テヤももともとは「動詞＋テ＋ヤル/アル」であったものが現在の形になったとするのがテヤ敬語の成り立ちとして自然なのではないだろうか。本研究はテヤ・チャッタの文法構造を明らかにすることが目的ではないため，これ以上掘り下げることは差し控えるが，本稿はテヤの構造が「テ＋指定辞ヤ」というよりはむしろ「テ＋尊敬の補助動

詞アル/ヤル」からの変化と考え，論を進めていくこととする。

2.2 チャッタについての調査研究

チャッタについて調べるにあたり，まずはチャッタという待遇形式が，舞鶴近郊においてどの範囲で使用されるのかに注目した。舞鶴市とくに東舞鶴地域は福井県若狭地方に近い距離にある。方言分布図においては福井県でのテヤ敬語の使用は確認されていないが，果たしてそうであろうか。それを確認するために，グロットグラム調査を利用することとした。グロットグラム調査とは，日本の方言学により開発された調査技法である。一方の軸に地点を，もう一方の軸に年齢をとって方言調査の結果を記号で表し，図にすることで，方言の地理的分布と年代変化を併せて見ることが可能になっている。本研究では，甲南大学方言研究会が2015年に行った「JR舞鶴線・小浜線（綾部～敦賀）」と「KTR宮津線，JR舞鶴線・山陰線（豊岡～福知山）」を利用し，舞鶴を含む綾部・福知山の中丹地域での「チャッタ」の使用状況を考察した。以下，甲南大学方言研究会のグロットグラムから，舞鶴に関する部分だけを取り出して考察を行った。

調査対象となったJR舞鶴線・小浜線の停車駅は，京都府綾部市～舞鶴市～福井県大飯郡高浜町～小浜市～敦賀市とつながり，KTR（京都丹後鉄道）宮津線・JR舞鶴線山陰線の停車駅は，兵庫県豊岡市～京都府京丹後～宮津市～舞鶴市～福知山市とつながっている。

筆者の居住地である東舞鶴地区は福井県に近く，福井県内から舞鶴市内へ通勤する住民も多い。そこで，ことばに関しても共通したものがあるのではないかと推測した。

グロットグラム調査から，①福井県ではほぼ見られなかった「チャッタ」の使用が，舞鶴市に入った途端に多く見られるようになる，②綾部市・福知山市では舞鶴市と同様の使用が認められるも，宮津市に入るとなくなる，③京都府北部から兵庫県に入ると，兵庫県の播州地方では「テヤ敬語」が使用されることが他の研究調査により明らかにされている一方で，同じ兵庫県内でも但馬地方では使用がない，④京都府北部でも丹後・宮津では「チャッタ」の使用は見られない（宮津までは「ナル敬語」使用地域であるとされる。），⑤舞鶴での低年齢層男子の「チャッタ」使用が少ない，などのことがわかった。

2.3 テヤ敬語とハル敬語

舞鶴は京都府北部のまちである。一般的に京都では待遇表現として「ハル」が用いられる。「ハル」は大阪・兵庫など関西地方の多くの場所でも使われており，京都では「イカハル」だが大阪では「イキハル」になるなど若干の形式の差こそあれ，ハルは関西共通の敬語となっている。しかし厳密に言うと，京都のハルと大阪のハルは性質の異なるもので，大阪のハルはごく一般的な敬語であり，京都のハルにはそれ以外の性質が含まれていると考えられるが，詳細は後述する。一方，同じ関西圏であり京都府内である舞鶴ではこのハルという表現はほとんど聞かれない。だとすると，テヤがハルの代わりをしているという可能性もあるのではないか，ハルを調べテヤと比較することでテヤの実態がわかるのではないかと考えた。そこで，舞鶴のチャッタを考察するにあたって，まずは待遇形式ハルについて調べることにした。ハルに関しては多くの先行研究が存在するが，本研究では主に岸江（1998）を参考としている。

もともと関西の敬語は標準語とは異なり，身内尊敬語的要素があるなど絶対敬語的であるとされる。その点は大阪のハルも京都のハルも同じであるが，しかし京都のハルには大阪のハルにはない用法がある。たとえば赤ちゃんに対して「よう笑わはる」と言ったり，猿に対して「おさるさん，なんか食べたはる」と言ったりする点である。大阪のハルにはこうした目下の者や動物を待遇する用法はなく，大阪では一時代前の「ヤル」がそうした役割を果たしていたと考えられる。岸江は，京都のハルの対者敬語的性質に着目し，対者敬語性を備えているのならば，聞き手が変わればハルの使用率にも変化が生じるだろうと考えた。そこで，話題の主（素材）を「猫」や「バス」に設定し，母親が聞き手の場合と近所のおじさんが聞き手の場合とで，「猫」や「バス」に対してハルを使う人の割合が変化するかという調査を行い，その結果どちらが聞き手でもハルの使用に大きな差はないことを確認した。聞き手が変わっても話者のハル使用率が変わらないということは，ハルの使用は聞き手ではなく話題の主（素材）に依拠しているということになる。そして，素材に依拠するのであれば，猫やバスといった本来は尊敬の対象ではないものに対してハルを使用するのは，普通に考えればおかしい。何か他の敬語にはない特別な要因がなければ，このような使い方はしないと考えられる。岸江はその「特別な要因」こそが「親愛・非親愛」というファクターなのだと論じている。

岸江（1998）によれば，京都のハルは敬語の範疇に属してはいるものの，レル・ラレルなどの敬語に比べ待遇価が低いという意味合いにおいて，一般的な敬語が持つ「へだて」の機能も弱いのではないかと考えられるという。確かに，知り合ったばかりの頃「レル・ラレル」で待遇していた相手が，時間が経って親しくなるにつれて「ハル」で待遇されるようになるというのはよくある話だ。これは待遇する側が相手に対して親近感を持つようになったからであり，「へだて」の意識が減少した分「親しみ」が増えたと見ることができる。そしてさらに重要なのは，京都のハルの使用には，加えて「親愛・非親愛」のファクターが作用するという点なのである。

では，先の「赤ちゃん，よう笑わはる」，「おさるさん，なんか食べたはる」を舞鶴ではどう言うのか。やはり舞鶴でも同じように「赤ちゃん，よう笑（わろ）てや」，「おさるさん，なんか食べとってや」と言う。つまり，舞鶴ではハルはほぼ使われていないという現状において，このテヤ

がハルの代わりとして舞鶴に根づいていると考えてよいのではないか。どのような歴史的経緯があって舞鶴にハルが伝播しなかったのかは定かではないが，方言周圏論に照らしてみると，ハルが伝播するより前から使われていたテヤが今なお舞鶴に残り使われ続けていると考えられる。舞鶴においても妻が家族以外の人との会話で自分の夫をテヤを使用して待遇するし，目下の者や動物に対してもテヤを使う。そこで，ハルとテヤには同様の機能がある，すなわちテヤにも親愛・非親愛のファクターが関係しているという予想をたてることが可能ではないかと考えた。

2.2では，グロットグラムの分析などから，①使用者が「使うのが恥ずかしい」，「敬語ではない」と感じていることが明らかになっており，チャッタは待遇表現として舞鶴においてどのような位置づけになっているのか，②低年齢層の男子の間で，チャッタの使用が少なくなっているのには特別な理由があるのか，すなわち年齢・性別で使用率に差があるのか，③チャッタの待遇表現としての敬意レベルはかなり低いのではないか，などの疑問点・検証すべき点が生じた。これらの疑問点・検証すべき点と，ハルとテヤの関係を明らかにするため，調査を行うことにした。

3. 調査デザイン

3.1 本調査の準備

本研究で明らかにしたい点を確かめるため，次の①②の観点で調査を行うこととした。

①言語体系：舞鶴における待遇表現のバリエーションの解明
舞鶴において待遇表現として用いられる言語形式にどのようなものがあるのかを確認した上で，個々の待遇表現の形式的な特徴や待遇的な意味を明らかにする。

②言語運用：対二人称的（対者敬語的）か対三人称的（素材敬語的）かの区別
①で明らかにした待遇形式が，どのように運用されているかを確認する。舞鶴のチャッタは対者には使用されない，チャッタは敬語ではない，若者は使わないなど言われていることから，それらが事実か否かを明らかにする。

まずはその準備として次のような予備調査を行った。

3.2 予備調査1；生え抜きの舞鶴人による自然会話採録

生え抜きの舞鶴人の自然な会話から，舞鶴におけるチャッタの使用についての現状分析を行った。インフォーマントの５人は舞鶴で生まれ育った生え抜きの舞鶴人であり，互いに血縁もしくは姻戚関係で，気の置けない間柄の人たちである。５人の同意を得て，まったくの自然な状況下で２時間程度の会話を録音した。結果，その間に合計109回のテヤ・チャッタの使用が確認できた。調査で聞き取った内容や，インフォーマントからの意見により，以下のことが考察された。

・会話の中で最も頻繁に使用される待遇形式がテヤ・チャッタである。それ以外の形式は，少なくとも家族・友人間の会話においては出て来ない。
・話題の人物が発話者より年上か年下かに関わらず，テヤ・チャッタは使用される。
・テヤ・チャッタの待遇度はかなり低いのではないかと考えられる。
・今回の調査では家族同様の親しい間柄での会話が対象で，対二人称的場面での使用があまり見られない。対二人称的使用を確認する調査が必要である。
・話題の人物が小学生であっても，チャッタが使われていることから，親愛語的な役割があるのではないか。
・話題の人物が夫である時には頻繁に使用されているが逆はないことから，身内敬語的要素があるのではないか。

これらの予想を検証するため，さらに調査を進めることとした。

3.3 予備調査２；舞鶴で使用される待遇形式に関するアンケート調査

舞鶴のチャッタは対者には使用されないのか，その実態をあきらかにし，また舞鶴でのその他の待遇形式使用の有無を確認するため，アンケート調査を実施した。

3.3.1 アンケートの内容

聞き手が主語となる15の場面を想定し，(1)「レル・ラレル」，(2) 標準語での一般的な敬語，(3)「ハル」，(4)「テヤ」「チャッタ」，(5) 普通体（丁寧語），(6) (1) ～ (5) のどれもあてはまらない，の６種類の言い方の中でどの表現を最もよく使うかをたずねた。(6) を選んだ場合は，どのような表現を使うか自由に記述してもらうようにした。

3.3.2 回答者内訳

性別は男性20名，女性19名の合計39名，年齢別回答者の内訳は，10代3名，20代2名，30代4名，40代10名，50代13名，60代6名，80代3名，平均年齢は50歳であった。出身地別には，舞鶴の地元出身者が34名，舞鶴以外の回答者5名であった。舞鶴以外の出身と回答した人も，全員が舞鶴での居住歴は10年以上である。

3.3.3 アンケート結果と考察

アンケート終了後，回答を男女別に分けて考察を行った。

3.4 予備調査３；人以外へのテヤ・チャッタの使用についての聞き取り

先に行った予備調査１と２の結果から，ウチ・ソトや上下のカテゴリー以外のものがテヤ・チャッタ使用を決定する要因として存在しているという予想をたてた。その点を確認するため，周囲の舞鶴人に対して質問調査を実施した。

3.4.1 聞き取りの観点

次の観点で，聞き取りを行った。①テヤ・チャッタの自然現象・人間以外の生き物への使用は可能か，②赤ちゃんやキャラクターなどの「かわいいもの・好ましい対象」と，虫や怖い動物などの「気持ち悪いもの・好ましくない対象」とでは，チャッタの使用に差はあるか，という2点である。

3.4.2 質問内容

上記の聞き取りの観点に基づいて作成した例文を，「自分で使う，あるいは自分が使わなくても使用可か不可か」という基準で周りの舞鶴人に確認した。

3.4.3 聞き取り結果からの考察

人にもよるが，自然現象や植物にテヤ・チャッタが使われることは少ない。また「嫌悪・恐怖の対象となる生き物」で，害虫などのように親愛の情を持ちにくいもの，「建造物や乗り物」などに対しても同様である。

また，人以外のもので，話題の対象が好ましいものである場合には，「使う」と答える人の方が多い傾向にあるが，好ましいものでない場合は，主に場をなごませる・冗談として笑いをとる等の意図でのみテヤ・チャッタを使うという意見が聞かれた。

これらの聞き取りから，人以外の対象でもテヤ・チャッタが使われることが確認できた。また，ある60代の男性からは「こんな赤ちゃん言葉みたいなのはすべて使わない」というコメントがあったが，これはテヤ・チャッタには語感をやわらげたり，かわいらしくしたりするイメージがあるため，一部の人には相手に媚びているかのような印象を与える可能性があり，テヤ・チャッタに女性語的要素があると考えられるようになったのではないだろうか。これについては，後の調査でさらに検証を進めることとする。

予備調査1・2での結果を受けて行った予備調査3において，①対象（話題の主）が人間であっても，人間以外であっても，その対象の行動について待遇形式テヤ・チャッタは使われる可能性がある，②それらの対象が好ましいものであるか好ましくないものであるかが，テヤ・チャッタ使用の選択に関わっていると考えられる，ということが明らかになった。

3.5 本調査の概要

以上に述べた1～3の事前調査での結果を踏まえて予想をたてた上で，本調査として，グーグルフォームを利用しアンケート調査を行った。1.対二人称的用法での使用について　2.対三人称的用法での使用について　3.人以外の対象への使用について　の3種類の例文を20個作成し，「自分でも使う」「自分は使わないが使う人もいる」「使わない」の3つの選択肢の中から１つを選んで回答してもらった。

3.5.1 回答者内訳

最終的に64人の舞鶴在住者もしくは舞鶴出身者からの回答を得た。男女の内訳としては，男性28名，女性36名となっている。

3.5.2 アンケート実施期間と実施方法

1か月間で，グーグルフォームを利用してアンケートへの協力依頼とアンケート内容の配信を実施した。

3.5.3 アンケート内容

予備調査2と同様，20の場面を設定し，提示した言い方をするかどうかを聞いた。予備調査2において，テヤ敬語が選択されるのは聞き手がある程度の親密な関係であるときであることがわかったため，問9～13の対三人称的使用法の質問では，聞き手は「家族または友人」とした。

問１：スーパーの袋を持って向こうからやってきた隣の家の人に話しかけるときに「買い物行って来ちゃったん？」という言い方をするか。

問２：先生に依頼をするときに「先生，今度クラスで発表するレポートをチェックしてくれてないですか？」という言い方をするか。

問３：仲のいい職場の上司に，人気の場所に行ったことがあるかたずねるときに「○○さん，牡蠣小屋はもう行っちゃったです？」という言い方をするか。

問４：旅行先で，地元の人に，行列ができている店の評判をたずねるときに「この店は地元の方もよく利用してですか？」という言い方をするか。

問５　配偶者もしくはパートナーに頼みごとをするときに「今日，荷物届くんやけど…午後から家におって？」という言い方をするか。

問６　足の悪い高齢の親戚があなたの家を訪ねて来たときに「一人で来ちゃったん？」という言い方をするか。

問７　行きつけの店の店主に看板が出ていない理由をたずねるときに「今日は営業しとってないん？」という言い方をするか。

問８　普段あまり話をしない職場の上司に，人気の場所に行ったことがあるかたずねるときに「△△さん，牡蠣小屋はもう行っちゃったです？」という言い方をするか。

問９　自分の家族と，隣の小学生の子の話をするときに「○○さんとこの△△くん，陸上で全国大会出ちゃったらしいやん」という言い方をするか。

問10　歳の離れた後輩と，世間話をするときに「松坂慶子が今度ドラマの撮影で舞鶴に来てんやって！」「え，すごい！…てか誰ですか，それ？」という言い方をするか。

問11　自分や親戚の子供と，通っている小学校の先生の話をするときに「○○先生，それ家に持って帰ったらあかんって言うちゃったやろ？」という言い方をするか。

問12　仲のいい上司と，その上司の家族の話をするときに「○○さんの奥さんって，ユニクロによく買い物行ってですか？よく似た人を見かけたんで…」という言い方をするか。

問13　家族と小学校の授業参観での子供の様子を話すときに「みんな“ハイ！ハイ！”いうて手挙げとっちゃったけど。うちの子は知らん顔や」という言い方をするか。

問14　「こっちは今晴れとるけど，西は雨降っとってらしいで」という言い方をするか。

問15　「チョキまるってカニやのに前向いて歩いとってや」という言い方をするか。

問16　「ほら，タローが飼い主帰ってくるの待っとってやで」という言い方をするか。

問17　「掃除しとったら，植木鉢のうらに変な虫おっちゃったよ」という言い方をするか。

問18　「ニュースで見たんやけど，福知山でクマが人襲っちゃったらしいで」という言い方をするか。

問19　「あそこの新しいスーパーいつできてんや？」という言い方をするか。

問20　「もうすぐタクシー来てやで，はよ帰る準備しなよ」という言い方をするか。

4. 結果と考察

4.1　本調査の結果と量的考察

アンケート結果を質問ごとに表にまとめ，クロス集計表を作成し，そのクロス集計表を基にカイ二乗検定を行った。上表の左側はそれぞれ「その言い方をする」「しない」「する人もいる」と回答した人の数（実測値）で，数字の右側の▲▼が有意水準を１％としたときの有意差を，△▽が有意水準を５％としたときの有意差を表している。表の右側は実測値と期待値から算出した残差で，表の中でnsと表示されているものは有意差が生じなかったものである。つまり，これらは回答者がチャッタの使用を選択する偶然性が否定できない回答であると判断される。

表１　本調査アンケート結果の統計数値

	実測値と有意差の有無						残差分析の結果					
問1	23		16		25		−0.8	ns	−0.9	ns	1.81	ns
問2	15	▽	25		24		−2.9	**	1.64	ns	1.53	ns
問3	23		20		21		−0.8	ns	0.24	ns	0.68	ns
問4	31		12	▽	21		1.24	ns	−2	*	0.68	ns
問5	22		21		21		−1.1	ns	0.52	ns	0.68	ns
問6	31		13		20		1.24	ns	−1.7	ns	0.4	ns
問7	36	▲	7	▽	21		2.54	*	−3.4	**	0.68	ns
問8	8	▽	30	▲	26	▲	−4.8	**	3.04	**	2.09	*
問9	43	▲	6	▽	15		4.37	**	−3.7	**	−1	ns
問10	37	▲	12	▽	15		2.8	**	−2	*	−1	ns
問11	41	▲	4	▽	19		3.85	**	−4.2	**	0.11	ns
問12	41	▲	6	▽	17		3.85	**	−3.7	**	−0.5	ns
問13	36	▲	10	▽	18		2.54	*	−2.6	*	−0.2	ns
問14	12	▽	37	▲	15		−3.7	**	5	**	−1	ns
問15	32		13		19		1.5	ns	−1.7	ns	0.11	ns
問16	34	▲	15		15		2.02	*	−1.2	ns	−1	ns
問17	6	▽	46	▲	12		−5.3	**	7.52	**	−1.9	ns
問18	12	▽	38	▲	14		−3.7	**	5.28	**	−1.3	ns
問19	17	▽	32	▲	15		−2.4	*	3.6	**	−1	ns
問20	25		20		19		−0.3	ns	0.24	ns	0.11	ns

（▲有意に多い，▼有意に少ない，p＜.01;△有意に多い，▽有意に少ない，p＜.05）
（** 有意に多い／少ない，p＜.01;* 有意に多い／少ない，p＜.05;ns 有意差なし）

上記の結果から「その言い方をする」と回答した人の設問毎の有意差を見ると，問9～問13，問7，問16において「有意に多い」との結果になっており，これらを有意にチャッタ使用が選ばれるグループとして，本稿では「チャッタ群」と呼ぶこととする。

表２　チャッタ群

問No.	使用対象	具体的対象	聞き手
9	第三者	隣の小学生	家族・友人
11	第三者	子どもの小学校担任	家族・友人
12	第三者	仲のいい上司の家族	家族・友人
10	第三者	有名人	家族・友人
13	第三者	うちの子	家族・友人
7	対者	なじみの店主	なじみの店主
16	第三者（非人間）	ペット	家族・友人

チャッタ群の問9～問13と問7は第三者に対して使用する場面である。聞き手は家族もしくは友人で非常に近しい関係の人であり，話題の主は「隣の小学生」「子どもの小学校の担任」「上司の家族」「有名人」「うちの子」と上下親疎が多岐に渡っている。これらの結果から，チャッタが素材待遇の役割を持っていながらも，隣の小学生や自分の子どもといった本来尊敬の対象とはならない相手に対しても使われることは明らかである。同じく対三人称的使用の場面であるが，ペットに対して使用する場面もこのチャッタ群に入っていることもまた，注目に値するだろう。つまり，舞鶴のチャッタ（テヤ）も，京都のハルと同様に素材敬語の役割を果たす一方で，親愛・非親愛のファクターを通して目下の者やペットに用いることがあるという性質を備えている表現形式であると考えてよいということではない

か。一方，一つだけではあるが「なじみの店の店主」が聞き手＝話題の主となる対二人称的場面での使用がチャッタ群に入っている。このことは，チャッタは素材敬語的つまり対三人称的であることに間違いないが，同時に対二人称場面でも選ばれる待遇形式であることを明らかにしている。

また「その言い方をする」と回答した人が有意に少ない設問は問2，問8，問14，問17～問19であり，上記「チャッタ群」に対しこのグループを，有意にチャッタ使用が避けられるグループすなわち「非チャッタ群」と呼ぶことにする。

表３ 非チャッタ群

問No.	使用対象	具体的対象	聞き手
19	第三者（非人間）	スーパー	家族・友人
2	対者	先生	先生
14	第三者（非人間）	雨	家族・友人
18	第三者（非人間）	熊	家族・友人
8	対者	あまり話をしない上司	あまり話をしない上司
17	第三者（非人間）	虫	家族・友人

非チャッタ群の問2と問8は対二人称的使用の場面，問14と問17～問19は対三人称的使用の場面であるが，非人間に対して使用する場面である。非チャッタ群に属する場面は，決して対二人称的使用に偏っているわけではない。ただし，このグループに属する場面の話題の主は，「建物」「自然現象」「虫」「猛獣」となっていて，どれも親しみを感じる対象ではない。対三人称的使用の場面でも，話題の主＝聞き手は「先生」「あまり話をしない上司」であり，こちらも同じく親しみを感じる対象ではない。この結果から考察できるのは，話題の主が話者にとって親しみを感じられるか否かが，チャッタの使用を決めるカギとなっているのではないかということである。一方で問8は「ふだんあまり話をしない会社の上司」に対して話しかける場面であり，「その言い方をしない」と回答した人が有意に多い一方，「する人もいる」という回答も有意に多いという結果になっている。これに関しては，「ふだんあまり話をしない会社の上司」の心理的位置づけが各人で異なると推測されたためではないかと思われる。このこともまた，チャッタ使用に関して親愛・非親愛のファクターが関わっていることの証明であるといえないだろうか。

問1～3と問5，問6，問15，問20は有意差なしのグループであるため，これらを「中間群」と呼ぶことにする。

表４ 中間群

問No.	使用対象	具体的対象	聞き手
15	第三者（非人間）	ゆるキャラ	家族・友人
6	対者	おじいちゃん	おじいちゃん
4	対者	旅行先の見知らぬ人	旅行先の見知らぬ人
20	第三者（非人間）	タクシー	家族・友人
1	対者	近所の人	近所の人
3	対者	仲のいい上司	仲のいい上司
5	対者	配偶者・パートナー	配偶者・パートナー

有意差なしということはすなわち，このグループに入る場面は，使う人と使わない人がある程度の率で分散し，傾向が定まらないものである。この中間群に分類される設問は，主に対二人称的使用の場面になっている。

中間群に属するのは多くが対二人称的使用の場面であり，話題の主＝聞き手は「親戚のおじいちゃん」「旅行先の見知らぬ人」「近所の人」「仲のいい上司」「配偶者・パートナー」である。こうした場面では，たとえば話者が聞き手に対してどのような感情を持っているかで使用の選択に差が出るようだ。すなわち，親戚のおじいちゃんに親近感を抱いている話者であればチャッタを使用して相手との距離を縮めようとするし，仲のいい上司とはいえ，相手は上司なのだからやはりある程度の敬意は必要だと考え，敢えてチャッタを選ばず心理的距離を保持しようとする人もいるであろう。ただ総じて言えることは，中間群に入っている話題の主は，ある程度仲はいいものの遠慮が必要な相手であるか，「親しき仲にも礼儀あり」で接する必要がある相手であるかということである。やはりこれも，親愛・非親愛のファクターがテヤ・チャッタ使用の決め手になっていることが見てとれる結果といえるのではないだろうか。

また，このほかに「チャッタは女性が使うことばである」と言われる点を検証するため，本調査の結果をもとにカイ二乗検定を用いて分析を行った。その結果から，回答者の絶対数が少ない（64名）ため精度に対する疑問は残るものの，男女でどちらかにテヤ・チャッタを多く使う傾向があるとはいえないということがわかる。これにより，舞鶴のテヤ・チャッタは男女を問わず使用される待遇形式であると考える。

4.2 4つの調査結果からみるチャッタ

3回の予備調査結果を踏まえて行った本調査では，予備調査の段階ではあいまいだった点，確認できなかった点などが検証できた。

まず，テヤ・チャッタが対三人称的にだけでなく対二人称的にも使用されるのかという点である。これまで，テヤ・チャッタは直接聞き手に対して使うことはないと考えられる向きがあったが，今回の調査によって，聞き手に対しても使われることがあると確認できた。

本調査において，チャッタ群に分類される対二人称的使用についての設問は1問のみで，逆に非チャッタ群に分類されるものは7問中5問が対二人称的使用であった。一方で，チャッタ群に分類されたのは７問中６問が対三人称的使用の場面である。本研究においては，話者と聞き手との関係が「ウチ」か「ソト」か，また「親」か「疎」かのフィルターで分ける調査は行っておらず，主に対三人称的使用場面において聞き手が「ウチ・親」の関係にある人である場合のみの考察にはなるが，聞き手が「ウチ・親」の関係である時，話題の主が人間であれば，まず，チャッタが選択される可能性が高いと考えてよいであろう。同じくアンケート調査からは，聞き手＝話題の主である対二人称的

使用の場面においては，その聞き手が必ずしも「ウチ・親」でなくとも，場合によってはチャッタが選択されることがわかっている。

以上，舞鶴のチャッタは対二人称的場面でも使われることがわかった。次に，その対二人称的場面での使用の特徴に注目すると，そうした場面でチャッタが選ばれるのは，必ずしも聞き手が目上の人の時ではない点が挙げられる。話者が聞き手との距離を縮めたいと思っているか，もしくは聞き手に対して親近感を示したいと思っている時にチャッタが選ばれる。チャッタにはレル・ラレル敬語のようなよそよそしさはないが，しかし近づきすぎることもない程度の距離感を作る役割があると考えられる。そうだとすると，グロットグラム調査で多くの調査協力者が「敬語ではない」「丁寧度は低い」「目上ではない場合に使う」「年上には使わない」と語っていることも納得がいくのではないか。チャッタは，敬語とは呼べないかもしれないが，適度に聞き手との距離を作りながら親密さを表す表現形式なのである。

そしてもう一つ重要な点として，対三人称使用の場面において聞き手が「ウチ・親」の関係にある時，チャッタで待遇される対象が，本来尊敬の対象となる目上の人や年上の人などに限らないということが挙げられる。子どもやペットなどにもチャッタを使い，待遇する。さらには対象（話題の主）が人間以外であっても，テヤ・チャッタは使われる可能性がある。しかしその一方で，聞き手が同様に「ウチ・親」の関係であっても，話題の主が「ソト・疎」である時には使われない場合があることもわかった。虫や猛獣が対象となるような場合である。舞鶴においてテヤ・チャッタは，話題の主が人でなかったとしても，それが話者にとって親しみを感じられるものであれば使用されるが，同じ非人間でも，それが虫や猛獣であったり建築物であったり親しみを感じられないものに対しては使われない。これらのことから，舞鶴のテヤ・チャッタは，京都のハルと同じように，それを使用する際に親愛・非親愛のフィルターが働いて選ばれる形式であるということに間違いはないであろう。

また，テヤ・チャッタは女性的な表現形式であると言われる。グロットグラム調査の回答者の中では，ある高齢女性が「恥ずかしいので使わない」と答えていた例もある。これに関しては，本調査のアンケート結果でも実際にわずかながら女性の方が多く使う傾向は出ている。しかし，アンケート回答者の絶対数が少ないという問題はさておき，それでもなお統計の数字にある程度の信頼性を認めるならば，チャッタの使用に男女差はないと判断してよいのではないだろうか。だとすると，女性的な表現形式であるというのは，あくまでイメージにすぎないという見方もできる。チャッタが女性的なことばなどではなく男性も通常使うことばであるということは，本調査によって明らかになったと言えよう。

5. 結論

これまでの方言研究では取り上げられてこなかった舞鶴のチャッタについて，運用状況やその役割などを明らかにするため，本研究では3回の予備調査に続き本調査を実施した。それまでは，「以前はチャッタがよく使われたが，今はあまり使われなくなった」「舞鶴のチャッタは第三者にしか使わない」「女言葉だから男性が使うものじゃない」などの見方があった。これについて，まず予備調査1において，自然な状況下で生え抜きの舞鶴人の会話を聞くことを通して，チャッタは過去のものでも廃れつつある方言でもなく，現在でもごく一般的に使用される表現であることを明らかにした。

「舞鶴のチャッタは第三者にしか使わない」という見方も，予備調査2を実施したことで実態が明らかになっている。本調査においても対二人称的場面での使用を問うており，それらの結果から，舞鶴におけるテヤ敬語は，素材敬語でありながら，対二人称的場面でも使用される場合があることがわかった。話題の主が聞き手であってもそれ以外の第三者であっても，重要なのは話者が聞き手に対し親近感を持っている，あるいは聞き手に対して親近感を示したいと思っているかどうかという点であり，相手と適度な距離を保ちながら，なおかつ親近感を示すためにテヤ・チャッタが選択される。そして家族や親友など，心理的距離を必要としない非常に近しい関係の相手には使われない。チャッタとはそういう表現形式なのである。

また調査では，舞鶴ではチャッタを赤ちゃんやペット・ゆるキャラなどに対しても使うという結果が出ている。岸江（1998）の中でも「隣の猫」や「子猫」にはハルを使うけれども，「どら猫」や「のら犬」には使わないとの調査結果が書かれている。このことは，京都のハルと舞鶴のチャッタ（テヤ）双方に完全に共通するものであり，舞鶴のテヤ使用に関しても京都のハル同様，上下関係や親疎関係以外に親愛・非親愛のファクターが作用しているものと考えてよいのではないだろうか。本稿の結論として，京都のハルと舞鶴のテヤは，本研究における調査結果から見ても，素材敬語的性質と対者敬語性（丁寧語性）を兼ね備えた，ほぼ同じ待遇形式であるとしてよいと考える。同じ京都府内にあっても舞鶴ではハルが使われておらず，文化的背景が異なるように思われたが，形としては同じであっても大阪などで使われるハルが京都のハルのような親愛・非親愛のファクターを持たないことを鑑みると，形こそ違えハルと同様の機能を持つチャッタを使用する舞鶴はやはり京都の文化圏であるとあらためて意識するに至った次第である。

最後に，本研究で実施した調査においては，対三人称的場面での用法については聞き手が家族・友人などに限定されており，聞き手が変わった時に使用頻度も変わるのかが明らかにされていない。これについては今後さらに調査を進め，明らかにしていく必要があると考え，今後の課題としたい。

文献

楳垣実 編（1962）『近畿方言の総合的研究』三省堂
鎌田良二（1962）「尊敬表現「て」について」『季刊文学・語学』全国大学国語国文学会 編 25　pp.57-63 三省堂
神鳥武彦 編（1979）『日本語方言学－その課題と方法－』東京堂出版
岸江信介（1998）「京阪方言における親愛表現構造の枠組み」『日本語科学』通号3 国立国語研究所
甲南大学方言研究会（2015）『KTR宮津線，JR舞鶴線・山陰本線　豊岡 - 西舞鶴 - 福知山間グロットグラム』
甲南大学方言研究会（2016）『JR小浜線・舞鶴線　敦賀 - 綾部間グロットグラム』
小西いずみ・井上優（2013）「富山県呉西地方における尊敬形「～テヤ」」『日本語の研究』9(3)号 日本語学会
福居亜耶（2015）「京都府福知山市方言におけるテヤ敬語の運用について」『阪大社会言語学研究ノート』13 pp.28-51 大阪大学
藤原与一（1978）『方言敬語法の研究』　春陽堂
村上謙（2006）「近世前期上方における尊敬語表現「テ＋指定辞」の成立について」『日本語の研究』2(4) 日本語学会
山崎久之（1963）『国語待遇表現体系の研究』　武蔵野書院